

学校だより

第3号

いつも心にあいうえお

令和6年9月 1日（日）

発行：那覇尚学院
 高等専修学校
 文責：初鹿野 修

教育課程を考える

新しい学校として、教育課程を充実させるのは重要なことだと考えている。まずは、生徒の実態をしっかり踏まえ、適切な教育課程を編成する必要がある。本校は1年目として、まだ見ぬ生徒を想定し、教育課程を編成し、現在、それを実施している。PDCAサイクルで考えると、1年の経過をみて次年度の教育課程を考えるのであるが、今は小回りがきくことをフル活用し、学びの充実に努めている。

教育課程とは？：本校の教育創造プラン（教育計画） IV 学校運営と教育課程を参照

学校は、3つのことを期待されていると思います

- ①「命」を守ること ②「可能性」を開くこと ③「夢と希望」を育むこと

この3つのことを実現するための具体的な営みが「教育課程の編成と実施」です。教育課程とは何か？「授業時数」のことでしょうか？それだけではありません。

教育課程とは：学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において、総合的に組織した学校の教育計画です。

「あたりまえ」「あたりまえ」のことを改めて考え、「あたりまえ」に感謝する

次の詩は、「飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ」（井村和清氏作）に載っていたものです。

あたりまえ

こんなすばらしいことを、みんななぜよろこばないのでしょうか。
 あたりまえであることを お父さんがいる お母さんがいる
 手が二本あって 足が二本ある 行きたいところへ自分で歩いてゆける
 手をのばせばなんでもとれる 音が聞こえて声が出る
 こんなしあわせはあるのでしょうか しかし、だれもそれをよろこばない
 あたりまえだ、と笑っています
 食事がたべられる 夜になるとちゃんと眠れ、そして又朝がくる
 空気をむねいっばいすえる 笑える、泣ける、叫ぶことができる
 走りまわられる こんなあたりまえのこと
 こんなすばらしいことを、みんなは決してよろこばない
 そのありがたさを知っているのは、それを失くした人たちだけ
 なぜでしょう あたりまえ

私たちの身の回りのことを見るにつけ「あたりまえ」と感じ取っていることがたくさんあります。この世に生を受けた自分自身のこと。太陽の光、水、空 気といった自然の恵み。有り余っている食品やその他の物質。それに友だち、家族と。例えば、夜になると家族が集まります。いつもいつも同じことの繰り返しで、明日も明後日もそれが 続くかのように思っていますが、いつか集まれなくなることが必ずあります。いうなれば、「またとあり得ない会い方であっている」のかもしれない。「あたりまえ」のことが本当にあたりまえのことなのかを考え、「あたりまえ」のことに感謝の目を向けて見ることも意義あることだと思います。

本校生徒の現在の状況

授業日数	1学期 72日
出席状況	出席 63 遅刻 53
	出停 2 欠席 7 理由有 3 理由無 4
出席率	90%

総合的な探求の時間：シャコ パンチ



A君の研究

おもしろい世界に引き込まれました。食べたことはあっても調べたことはなく、シャコの多面性を教師も知ることが出来ました。



指定課題研究② モウリーニョ



サッカーの世界では有名。このことも知らない世界で、ここにも学びがありました。